

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1272201748		
法人名	株式会社 マザアス		
事業所名	マザアスホーム だんらん柏・酒井根		
所在地	〒277-0053 千葉県柏市酒井根21-6		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokkensaku.jp/127/index.php">http://www.kaijokkensaku.jp/127/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成25年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

できないことが増えてくる中で、残存機能をできるだけ維持し、意欲低下を防ぐにはどうすればいいかと試行錯誤しています。身体介護が必要になってくることでの職員のスキルアップにも努めています。また、ご入居者様には季節を感じていただけるよう四季折々の行事を中心に毎日の生活に取り入れ、イベント行事としても利用しています。今年度は、1・2階合同での八景島へのバス旅行を実施し、ご家族様にも楽しんでいただきました。1・2階合同で活動することも多く、“だんらん柏・酒井根”として考えています。ご入居者様のみならず職員の交流もしており助け合いながら取り組んでいるところです。アートセラピー、フラワーセラピー、音楽療法、傾聴ボランティアなどこれからも楽しめる行事をできるだけ取り入れて行きたいと考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念である「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」実現のために、施設の方針を「今を楽しく過ごす」として、利用者が多くの行事等に参加できるように取り組んでいる。地域の文化祭には利用者が時間をかけて制作した芸術作品、書道、絵画等を展示しており、多くの見学者が訪れて利用者と作品作りの会話等しながら地域の人達と交流をしている。地域のふれあいコンサートには、全員が参加して地域の他の施設と交流する機会を得ている。また、八景島へのバス旅行では家族、職員と一緒に利用者と楽しく過ごしている。利用者が楽しむ機会を多くする取り組みは家族から感謝されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」の理念の下、その人らしく安心して暮らせるよう支援します。「自分らしく、明るく、楽しく」「できることの喜びを感じる」と各ユニットごとの方針もあり取り組んでいます。	理念は職員の入社時の導入研修で指導しており、毎月のミーティングで周知してサービスに取り組んでいる。施設では、利用者が「今を楽しく過ごす」ことを目指して、地域行事への参加や季節行事等を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動、文化祭での出品等参加しています。また、隣の幼稚園との交流もありご入居者は喜ばれています。	地域の文化祭に、利用者の芸術作品や絵画等を展示して、見学の人達から高い評価を受けている。近隣の幼稚園のクリスマス会に参加して楽しく過ごしたり、町内のクリーン作戦に参加する等地域と交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	柏市内の専門学校の実習生を受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催しています。町会長の出席もあり町会での催しや取り組みの話も聞く機会があります。	運営推進会議は、家族、地域代表、行政が参加して6回開催している。施設から行事の計画やバス旅行等の活動状況を説明している。地域代表からは防災関係の説明があり、対応を話し合っている。	会議は計画的に開催しており、施設の活動状況を詳細に説明して話し合っている。今後は参加者から、行事の計画等についても積極的な提案を受け入れることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の協力の下、グループホーム連絡会を立ち上げ、交流会や講演会を行っています。職員には参加を促し勤務調整をします。年1回のふれあいコンサートには、市内すべてのグループホームご入居者、職員が集まります。	グループホーム連絡会が年5回行われ、行政からの連絡や緊急時の対応等の研修案内があり参加している。連絡会が開いたふれあいコンサートには、施設全員で参加して楽しく過ごしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者には高齢者権利擁護専門課程受講終了としています。昨年度より、玄関の施錠解除をしています。	身体拘束と虐待防止について毎月のミーティングで指導している。対象事例はないが、職員は車椅子利用の際等拘束にならないように注意している。法人の人権擁護委員会が審査で問題を指摘して改善をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所独自の研修会に参加を促しています。また、職員には見逃すことのないよう注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用の方がいます。 研修会実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時には、営業担当者、管理者もしくは職員が立会い、疑問点、不安に感じられることなどにお答えしています。契約時にも再度、納得が得られるよう説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談ボックスを設置していますが、利用されたことはありません。家族懇談会の開催や面会時に相談を含めた意見交換をしています。	家族会は5回開催している。施設からは事業計画、外部評価のアンケート結果、行事計画等を説明している。家族とはバス旅行の感想など話し合っって次回の企画の参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを行い、意見交換の場としています。また、必要に応じて臨時のミーティングを行うこともあります。	ミーティングでは職員と、褥瘡防止等健康管理等について話し合い利用者への対応をしている。職員研修は毎月行っており全員が参加している。受講の内容は個人別に履歴を管理している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員は年2回、事業所独自のチャレンジシートに目標課題を記入し、目標の設定、達成を上司と確認する機会を設けています。非常勤職員にも面談を行い、目標をみつけ向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修には参加を促し、外部研修には受講希望者を募り、勤務時間の調整をしています。今年度は、ユニット内での勉強会を行い各自のスキルアップに役立てればと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会にて、研修会・職員交流会を開催し参加を促しています。また、法人5ユニット間での研修会を行い交流もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の抱えている不安や困っていること、要望などを聴き受け止める努力をしています。入所前には必要に応じ数回の面談を行い不安の軽減や信頼関係を築くよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時、また面会時にはご家族の心配事、要望などを納得されるまで聴く体制をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前情報を元に、本人や家族の要望を聴き、必要に応じて主治医、本部職員に相談し対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で一人一人のできることを引き出し、ご入居者間での役割を持っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「今」の状態を面会時や必要に応じて電話でお伝えしています。また、家族会などで様子を見ていただく機会を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や写真を居室におき、安心して暮らせるよう支援しています。また、ご本人の要望に応じ、家族の理解と了解をえて外出しています。個別にて外出のお手伝いもしています。	以前から利用していた床屋で楽しく過ごしたり、デイサービス当時の知り合いがボランティアで訪れてくる等、以前から付き合いのある人達と交流をしている。散歩の際にも気軽に挨拶をして馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関われるよう席の配置を考慮しています。また、お互いの居室を行き来することもあり、孤立することのないよう雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所内の移動では、継続的な関わりが必要な利用者や家族には、退所後も相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には本人、家族の意向を把握し職員間で共有しています。また、伝えられない方には、本人が望んでいるだろうと思われることを家族・職員と検討しています。定期的にカンファレンスを行い意見を出し合うようにしています。	利用開始時には、居宅で話し合いアセスメントを行っているが、内容は生活状況他、23項目について詳細にまとめている。更に施設での生活の様子を見ながら記録して、利用者の意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、生活環境、サービス利用状況の把握ができるよう入居までにアセスメントシートの記入をお願いしています。また、見学時にもお話を伺うこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや介護記録の記入、申し送りにて状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が記入したアセスメントシートを元に、ミーティングやカンファレンス時に意見交換しています。そこでの課題については、本人・家族・医師に話を聞いてサービス計画書を作成します。	最初に確認した内容をアセスメントシート、出来ること出来ないことシート等4種類にまとめ、介護計画を作成している。カンファレンスで利用者の会話が変化した点等、職員が気付いた事を話し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護サービス経過記録に日々の様子やケアの実践、気づきを記入し申し送りにて職員間で共有しています。また、介護計画の見直しにも反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院が必要な方の通院介助、マッサージ、美容の手配をします。体調変化による移乗時の指導など理学療法士より受けることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてボランティアの協力を得ています。地域の文化祭や幼稚園の行事にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医に月2階の往診があります。本人、家族の希望で入所前の主治医に受診している方については受診支援を行っています。また、認知症専門医、歯科医の往診が受けられます。	受診は家族が基本だが、都合が悪い時は職員が代行している。殆どの利用者が施設の提携医の往診を、月に2回受診している。認知症専門医と歯科の往診もあり、状況記録の提供等適切な受診の支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師、薬剤師との連携がとれており、グループ内を巡回してくれる看護師に相談できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、本人、家族と重bんな話し合いと情報交換に努め、退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化が生じた場合、家族・主治医・職員で蜜に話し合いを持ち方針を共有していきます。終末期や医療が必要になると看護職員の多数いる本体事業所である有料ホームや協力医療機関と連携し最後の生活が満足いくものとなる様態押しています。	重度化してくると、主治医が施設と家族に説明し、家族の希望に沿うようにしている。医療が必要な場合は、医療機関に紹介する。また、出来る限りの支援後、医療体制のある施設入所に繋げている。主治医・家族・施設、関係機関と密な連携ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修会に参加したり、事故発生時の初期対応ができるようミーティング等で話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。近隣への協力体制については、入居者の配置図を町会長に提出しています。また、夜間は隣の小規模多機能施設と協力しあうことになっています。	スプリンクラーを設置している。年2回火災想定での避難訓練を行っている。他に、停電時を想定して細かい確認を行っている。同法人の隣の施設、前の病院、老人保健施設と「協力し合う」合意と、心構えが構築されている。	施設の配置図を町会長に提出し、地域の協力を得られるよう努力している。さらに確実な避難ができるように、夜間想定での避難訓練を是非実施するよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修は、新人研修から継続的に続けています。言葉かけに関しては、人生の先輩として敬う気持ちを持ち十分注意するよう指導しています。	言葉づかいに注意している。親しい中でも礼儀ありをモットーに、尊敬語・丁寧語を心がけている。また、着替えや排泄介助のときには、周りの目に触れないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中から思いや希望を聞き取り、表現できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、一人一人のペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を尊重し、その人らしい装いができるよう支援し、お化粧をする機会を作っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を考えることが主になります。自然な流れで調理、片付けに参加できるよう支援しています。また、入居者一人一人の残存能力をいかした支援の仕方を実施しています。	咀嚼状況を確認し、その状態に合う形状に調理している。入れ歯が合わなければ歯科医の往診を仰ぎ、美味しく食べられる支援をしている。職員と一緒に調理し、クラシックを聞きながら食事して、片づけもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が摂取できるよう状態に合わせて、キザミ・ミキサーと形態を検討し提供しています。水分は、1200ccから1500ccを目安にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし必要な方には介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人にあった排泄介助をしています。それぞれのパターンをつかみ、声かけ・誘導・介助と必要な支援を心がけています。	日に1200～1500ccの水分摂取をめざし、個々の前日の飲水量により、トイレ誘導の間隔を加減している。退院後入所し、排尿間隔の把握により、紙オムツ使用から自立した人もいる。細やかな自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェックと排便確認を行っています。便秘予防のための食材の工夫、運動などを考慮するよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれのタイミングに合わせて、できるだけ希望に添えるよう支援しています。状態にもよりますが週3回の入浴ができるよう努めています。	毎日入浴の準備をしている。体力と体調を確認し、週に2～4回入浴している。皮膚の状態が気になる時は、法人の看護師に相談している。脱衣所・浴室共暖房設備、手すりがあり、安全な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の睡眠パターンを把握し状況に応じてお休みできるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬中の薬を把握し、副作用を理解したうえで支援しています。服薬後の症状の変化も確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの継続を支援しています。また、外食・買い物・イベントなど気分転換を図るよう努めています。		
	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ができるだけ多く行けるようとめています。外出はほとんどの方が車椅子を利用されるようになり、グループに分けて出かけることもあります。家族会でのバス旅行では、1・2階合同で実施しました。	毎日2回散歩する人もいる。春と秋に片道40分くらいの所へピクニックに行っている。家族会で八景島へバス旅行した。排泄介助ができる所を探す難しさがあるが、外出は利用者の顔つきが良くなり、喜びがある。法人のバスと人員の応援体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談の上、買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時により、電話や手紙のやり取りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、起床時に窓を開け換気をしています。掃除は、入居者とともにすることもあります。リビングやテラスには花が見えるように飾り、廊下には作品を展示し、心地よく過ごせるよう心がけています。	共用空間・廊下には、豆まき等の写真や利用者の手作りカレンダー、福祉文化祭に出品した作品等が沢山飾られている。家族旅行の写真を見ると、思い出しては話している。また、各々いつも同じ所に腰かける。居心地よく過ごせるような配慮が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士が過ごせるよう配慮しています。ベランダや庭にはベンチを置き、利用できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、備え付けのベット、タンス以外は持ち込み自由となっています。なじみの家具、調度品など置いていただきます。歩行状態が不安定な方には、動線を考え使いやすく工夫します。	個々の居室のドアや室内には、自らの手作り作品や家族との写真が飾られている。また、思い出の品々で彩られている。ベッドの位置も、身体の状態に合わせ、動線を考えて置かれている。細やかな工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはプレートをつけ、引き戸で開閉のしやすいドアにしています。居室には、写真や表札をつけわかりやすくしています。		